

第 10 回ホネホネサミット 2025@ 高知県黒潮町

山本幸介

令和7年11月22日（土）～23日（日）、土佐西南大規模公園ふるさと総合センターで開催された「第 10 回ホネホネサミット 2025@ 高知県黒潮町」に出展するため、駿河ほねほね団の高山、榎原、山本の3名が参加してきました。ホネホネサミット（以下、ホネサミ）は、骨格標本作りに携わる方々が全国各地から集まるイベントで、骨をこよなく愛し、標本作りの沼にはまつた者が、プロアマ関係なく、日々の活動の成果を発表する機会でもあります。昨年は我が静岡でも初めて開催されました（詳しくは本巻第 87 号をご覧ください）。高知県では3回目のホネサミの開催で、今回は 31 団体の出展がありました。

今年の駿河ほねほね団の出展テーマは「ナマケモノ」。日本平動物園からふじのくに地球環境史ミュージアムに寄贈されたフタユビナマケモノの父子の遺骸を標本化（父は骨格



フタユビナマケモノの仮剥製

標本、子は仮剥製）したものを展示しました。仮剥製の展示は樹上で生活するナマケモノの生態を意識し、会場において、パイプを繋ぎ組み立て、糸で結んで吊るしてみました。「仮剥製なのにぶら下がっててかわいい」との声も聞かれ、参加者・来場者から注目を集めてました。また駿河ほねほね団ではお馴染みのシカの手根骨パズルは今回、3D プリンタで拡大出力したレプリカを製作、初めて出品しました。しかも、磁石を埋め込んでいるため、骨同士が合わさればくっついた状態を維持できるため、とても扱いやすくなっています。

ナマケモノの仮剥製・生体のイラストシール・ポスター・Tシャツのデザイン、3D レプリカは全て今回参加できなかった団員がそれぞれ得意分野を活かし協力してもらったおかげで実現しました。ひとりひとりの力が合わさると、より良い展示ができるんだということを改めて実感しました。



シカの手根骨パズルにチャレンジした来場者